

レイグラントイルの機能性

1 寸法安定性に優れる

一般的なビニル床タイルは室温の変化などにより寸法変化(伸縮)が見られますが、レイグラントイルはガラス繊維を内包することで、温度変化による伸縮を抑えることができ、寸法安定性に優れています。

試験		レイグラントイル	一般的なビニル床タイル
加熱による変化率(%) ※1	長さ	-0.04	-0.07
	幅	-0.04	-0.08
熱膨張率(°C ⁻¹) ※2	長さ	3.5×10^{-5}	8.8×10^{-5}
	幅	4.5×10^{-5}	8.9×10^{-5}

数値は実測値であり保証値ではありません。

《1°Cあたりの変化量》 150mm × 914.4mm サイズの場合

	長さ	幅
レイグラントイル	0.03mm	0.007mm
一般的なビニル床タイル	0.08mm	0.01mm

レイグラントイルの方が寸法安定性に優れています。

※1 試験方法 JIS A 1454 準拠

23°Cから80°Cに加熱し6時間静置後、23°Cで1時間静置した時の寸法の変化量を測定する。数値が小さいほど寸法安定性に優れていることを示す。

※2 試験方法 JIS A 1454 準拠

予備加熱として80°Cで6時間静置してから23°Cで6時間静置後、5°Cで24時間静置後のサイズと、35°Cで24時間静置後のサイズを測り、その差を測定する。数値が小さいほど寸法安定性に優れていることを示す。

2 突上げしにくい

突上げは、室温の変化などによる床材の膨張を接着剤が抑えられないことで発生します。レイグラントイルはガラス繊維による優れた寸法安定性と、5mm厚のタイルの自重によって、ピールアップボンドで施工しても突上げしにくい仕様です。

《突上げ試験》 0°Cから80°Cに昇温させた場合



レイグラントイル (5mm厚)
変化なし

一般的なビニル床タイル (3mm厚)
突上げあり

レイグラントイルは突上げしにくい仕様ですが、大幅な温度変化や施工時の詰めすぎは突上げを招く場合があります。突上げを防止するためにも低温環境での施工は避けてください。

室温15°C以上での施工をお願いします。

試験方法

室温0°Cの環境下で2枚の試験体を突き付けてピールアップボンドで施工し、オープンの中で80°Cに昇温させたときのタイルの状態を測定する。

3 不陸が目立ちにくい

下地となるフリーアクセスフロアパネルに若干の段差や隙間があっても、5mmの厚みが不陸を目立ちにくくします。

《不陸発現性試験》

不陸	50往復	100往復	150往復	200往復	試験結果(200往復)
パネル段差 2mm 	発現しない		少しあるが目立たない		 少しあるが目立たない
パネル隙間 5mm 	発現しない				 発現しない

試験結果は実測値であり保証値ではありません。

不陸の上をキャスターで往復させた時、100往復までは不陸は発現せず、150往復以上では発現しても目立ちませんでした。

レイグラントイルは不陸を目立ちにくくします。

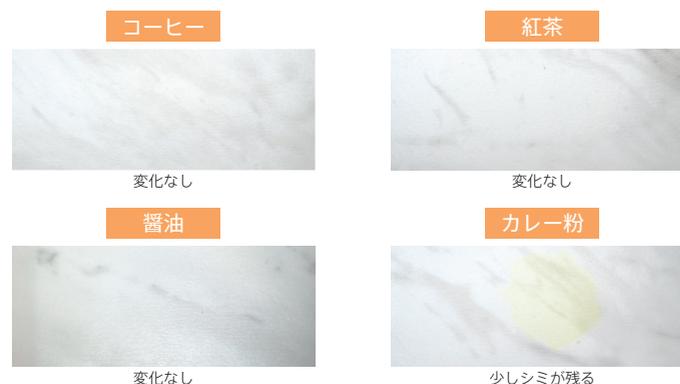
試験方法

室温24°Cの環境下で、2mmの段差と5mmの隙間の上にタイルを置き、不陸部分でキャスターを往復させ、タイル表面への不陸の現れ具合を測定する。キャスターの荷重は30kg(1輪)、サイズは50φ×20mmのゴム製のキャスターを使用。

4 汚れに強い

ビニル素材のため、日常的な使用で発生する様々な汚れに強く、メンテナンスがしやすい床材です。

《汚染性試験》 拭き取り後



コーヒー

紅茶

変化なし

変化なし

醤油

カレー粉

変化なし

少しシミが残る

試験結果は実測値であり保証値ではありません。

**水分が染み込みにくく、メンテナンス性に優れていますが、
汚れが付着したら速やかに拭き取ってください。**

試験方法

それぞれの汚れを付着させ、24時間静置後に中性洗剤を含ませた布で拭き取った状態を確認する。

※ゴム製品、染料、防腐剤、防虫剤などによって床材が汚染され変退色を招く可能性がありますので、汚れた場合は速やかに拭き取ってください。